

第 133 回「言葉の院外処方箋」  
寄り添うために ～ 「繰り返す」 ～

2022 年 10 月 25 日第 96 回がん哲学外来メディカル・カフェ@よどばし  
(淀橋教会に於いて) に赴いた。多数の質問が寄せられた。

- 1) がんに「個性」があると、先生はおっしゃいます。これには常々教えられます。「特徴」とか「特性」とか「目印」ではなく、人や、意志を持つ生き物に使う「個性」という言葉を使うと、世界が全く違ってくるように思います。それが「がん哲学」というものなののでしょうか。
- 2) このメディカル・カフェで、先生は何度も同じ話をしてくださいます（それでもなかなか覚えきれず思い出せませんが）。また、先生は内村鑑三全集他を何回も読んでいらっしゃると思います。それがとても大切だと思わされます。「繰り返す」ことの大切さを、詳しく教えてください。
- 3) 老化というものは、細胞において起きているのでしょうか。もしそうなら癌細胞も老化するのでしょうか
- 4) 借金なら共に担う事は出来ても、病や癌はそういう訳にはいかず、当事者の苦しみそのものを担う事も、理解する事も難しいように思いますが、その上で寄り添うために、何を心がける必要があるのでしょうか。
- 5) 人生に期待するところから、人生から期待される生き方に変えられるにあたって大事な事とは何でしょう。
- 6) もし自分が年を取って認知症になったら、みんなの迷惑にならないように自分を施設に入れてほしいと言っていた人も、いざその時になると、「どうしてそんな所に入れるの？」と言われてしまったら、どうしてあげたら良いと思いますか？
- 7) ときどき、「性格的にあんな風な人にはなりたくない」と思う人を見ることがあります。どうやったらできますか？ 反対に、「性格的にあんな風な人になりたい」と思う人になるには、どうやったら、できますか？
- 8) 生きる気力を失ってる人に相談されることがあるのですが、励まし方の注意点はなんですか？

などなど 30 を超える質問を頂いた。大変有意義な貴重な時となった。